

景観計画見直しの方向性について

■文京区の景観特性

文京区らしい景観を構成する要素や場所を景観特性として捉え、地形、歴史・文化、まちのまとまり、骨格、拠点、緑、活動の7つを挙げている。

■拠点について

- ・景観計画における拠点の考え方

日常生活の利便性を高める様々な機能が集積していることから、多くの人々が訪れ、賑わいのあるエリア

- ・景観形成の方向性

それぞれの拠点にふさわしい賑わいのある景観をつくる

文京区都市マスターplan

都市拠点

都市機能が集積し、鉄道乗車人員が多い駅周辺を都市拠点として位置づけ。

土地の高度利用・有効利用による、商業・業務機能や地域特性に応じた都市機能の集積、にぎわいや交流を生む空間の創出、駅とまちとのつながりを高める施設の整備を誘導。

→多くの人々が訪れ、賑わいがあるエリアという考え方は変わっておらず、オープンスペースの景観配慮等を必要とするため、拠点として追加する方針としたい。

■根津、千駄木駅周辺について

文京区都市マスターplan

下町交流ゾーン

下町風情のある景観や、個性的な小規模店舗の集積などにより、落ち着きのある居住空間であるとともに、観光客が集まる根津・千駄木地域を下町交流ゾーンに位置づけ。

地域の防災性の向上を誘導しながら、住宅地と調和のとれた東京を代表する観光地を形成。

上記内容補足

根津駅・千駄木駅周辺の下町風情を感じさせる景観は、文京区内においても個性ある地域であるため、新たな将来都市構造の1つとして下町交流ゾーンに位置付けた。

一定規模以上の敷地において有効な空地を確保し、高層の建築物を建築するといった土地の高度利用・有効利用を行うとされている都市拠点にはそぐわないため、『文京区都市マスターplan 2011』と異なり、独自の位置づけを行った。不忍通りの裏側は、戸建て住宅と小規模店舗が混在する土地利用を維持すること、防災性強化と景観維持を両立する改修・建替えを誘導すること、住む人・訪れる人の交流空間としての道路の整備・活用を図ることなどを掲げている。

なお、不忍通りについては都市軸にも位置付けられていることから、沿道における最寄りの住民等の生活利便機能等の形成や、駅周辺を中心として、土地の高度利用・有効利用を図ることで、都市拠点に準じた都市機能を果たすことなどを掲げている。

→下町交流ゾーンは、景観計画の下町風情あるまち基準の範囲と同じである。

根津駅・千駄木駅周辺の拠点をどう考えていくか、ご意見いただきたい。